

## 浜辺をもっときれいに 堀川・栢田浜で海岸清掃を実施



海岸清掃には地元の小学生やその保護者などが参加

堀川浜～栢田浜の海岸で4月25日、匝瑳市海岸美化委員会主催の海岸清掃が行われました。これはきれいな海を次世代の子供たちに残すことを目的に実施されたもので、地元の小学生やその保護者など約60人が参加。プラスチック容器類など1tを越えるごみを回収しました。

同会の石田昇代表は「今日の海岸清掃活動をきっかけに、海洋プラスチックごみの問題などに関心を持ってもらいたい」と話していました。

この活動は今後も定期的に予定され次回は、7月4日の8時から、栢田浜の海岸を中心に実施予定です(参加者に対しては傷害保険加入済)。

## 2種類の輝きが300人を魅了 聖火リレートーチを展示

東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレーで用いられるトーチの展示が5月15日、八日市場ドームで行われ、約300人が来場しました。

トーチは、日本人に最もなじみ深い花である桜をモチーフに製作されたもので、長さ71cm・重さ1.2kgのアルミ製。色はそれぞれ「桜ゴールド」(オリンピック)、「桜ピンク」(パラリンピック)と呼ばれます。来場者は異なる輝きを放つ2本のトーチを間近にして、その美しさに魅了されていました。

会場でトーチの説明を受けた椎名琉賀くん・椛香ちゃん兄妹は、「思ったより軽くてビックリ。実際に持ってみたいです」と話していました。



聖火リレートーチの前で記念撮影をした  
椎名琉賀くんと椛香ちゃん

## 軽自動車を寄贈



有限会社石毛モータースから、新型コロナウイルス感染症対策への活用に、軽自動車1台(112万2000円相当)の寄贈がありました。

これに対して同社を善行者として表彰し、5月20日に、太田市長から石毛高之代表取締役へ表彰状が贈られました(=写真)。

## 「駅からハイキング」を開催

太陽光発電と農業が両立する「ソーラーシェアリングの郷」の他、神社仏閣などを巡るコースとして、4月24日～5月9日の間、「駅からハイキング」が開催されました。

期間中は計228人が参加し、新緑に彩られた市内の景色を堪能しました(=写真・5月1日撮影)。



## 小型発電機を寄贈



株式会社エレオから、災害時などの停電対策に、非常用小型発電機2台(196万円相当)の寄贈がありました。

これに対して同社を善行者として表彰し、4月26日に、太田市長から吉田英行代表取締役へ表彰状が贈られました(=写真)。

# 叙位・叙勲

叙位・叙勲の受章者を紹介します(敬称略)。

## ◆従五位瑞宝小綬章

土屋 俊一 (椿)

昭和60年に県立山武農業高等学校の教壇に立って以来、35年の長きにわたり高等学校教育に尽力。この間、同成田北高等学校長、同長生高等学校長などを歴任し、在任中は、全国理数科高等学校長会理事長も務め、県内のみならず全国の理数科教育の発展にも寄与されました。(令和3年4月30日逝去)



## ◆従六位

高野 茂 (椿)

昭和19年に匝瑳郡豊畑村立豊畑小学校の教壇に立って以来、40年の長きにわたり児童生徒の教育に尽力。この間、香取郡山田町立山倉小学校長、旭市立矢指小学校長、八日市場市立椿海小学校長などを歴任し、学校教育および社会教育の振興に寄与されました。(令和3年5月12日逝去)



## 投稿写真館

### No.55 天神山浅間神社からの富士山

清藤 伸 さん(飯倉台)

「かねてより、天神山の浅間神社(富士信仰)から富士山が見えるのではとチャンスをうかがっていました」

撮影場所:八日市場イ



## 避難環境の改善に 災害時における協定を締結



協定を締結した、(株)デベロップの岡村代表取締役(左)と太田市長

市と株式会社デベロップは5月28日、避難環境の改善を目的に、「災害時における移動式宿泊施設等の提供に関する協定」を締結しました。

この協定は、災害時に被災者の一時的な宿泊施設を確保するため、市の要請を受け、同社から市へ移動式宿泊施設(コンテナホテル)を優先的に提供するという内容です。

同日行われた締結式で、岡村健史代表取締役は、「コンテナホテルは仮設住宅ができるまでの宿泊施設として活用してほしい」と話しました。

## 「日本への理解が深まった」 3カ国の駐日大使が田植え体験



田植えを楽しむ、駐日ギリシャ大使のコンスタンティン・カキユシスさん(中央)とその夫人

野栄ふれあい公園近くの水田で5月16日、そうさの米研究会の主催で、ギリシャ、アルジェリア、アンゴラの各駐日大使などを招待し、田植え体験が行われました。

これは、「日本の伝統文化である稲作を学び、日本を応援したい」という駐日ギリシャ大使の発案で、地域ブランド米「匝瑳の舞」の海外PRを展開していた同会に声が掛かり、実現したものです。

参加した大使の皆さんは、田植えを楽しみながら「夫婦で田植えを初めて経験し、農耕社会である日本について理解が深まりました」と話していました。